

水稲水不足に対する技術対策

那須農業振興事務所

平成 31 (2019) 年 4 月 22 日

1 水稲栽培上の技術対策について

4月10日以降まとまった雨が降っていないため、用水不足による代かき遅延が心配されます。そのため、田植えが遅れた場合に対応が出来るよう用水の有効利用並びに、現在育苗している水稲苗の老化を防止するため、次の対策を実施しましょう。

2 本田の節水対策

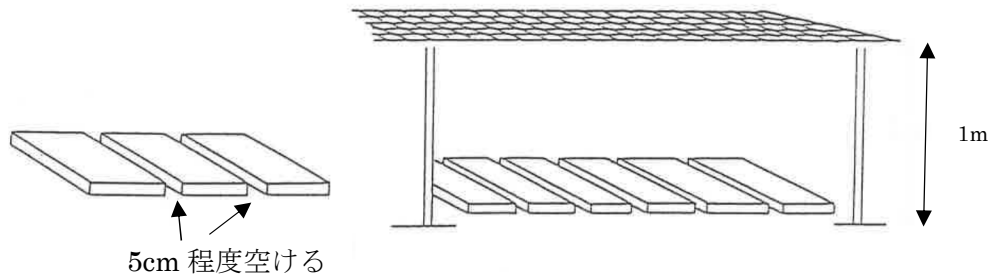
本田の田植え準備としては、次の対策を行きましょう。

- (1) 代かき前に、ほ場内に通水用の溝を作り（トラクターのタイヤ跡も効果有り）、短時間に水がほ場全体に回るように心がけましょう。
- (2) モグラ穴などを埋め、畦畔等からの漏水防止をしっかりと行いましょう。
- (3) 代かきのため一斉に取水すると、どの水田も代かきが出来なくなるので、地域ぐるみで取水を調整し、計画的な水利用（順番に水を入れる番水方式）を行いましょう。
- (4) 荒代・植代の2回実施する余裕がなく1回仕上げをする場合、水持ちを良くするため、代かき回数を多くするとともに丁寧に行うようにします。なお、ハローは高速回転にしないよう注意しましょう。
- (5) 水のかけ流しは、用水の無駄遣いになるので絶対にしないで下さい。

3 育苗管理について

育苗日数の延長が予想される場合、苗の徒長・老化を防止するため、次の対策を行きましょう。

- (1) 苗箱へのかん水は、朝方一回、十分にかん水し、日中のかん水は極力行わないようにしましょう。日中のかん水は、覆土表面の土が乾き、苗がしおれる部分のみ（特に苗箱の回りが乾きやすいので注意）とします。
なお、午後3時過ぎはかん水は行わないようにします。
- (2) 昼は換気を徹底し、夜間も外気温での管理とします。ただし、強風時に苗に直接風が当たると乾きやすいので注意しましょう。
- (3) 寒冷紗等で遮光し、風通しを良く管理しましょう。また、苗箱を5cm程度ずらし、箱間の通気を良くしましょう。



(4) 播種後 25 日を過ぎると (葉齢 2.5 葉程度) 肥料切れにより苗が黄化するのを、窒素成分で箱当たり 0.5～1.0 g となるよう、水に溶かした液肥をジョウロ等で追肥します。肥料による葉焼けを防ぐため、追肥後は清水を軽く掛けましょう。

(5) 育苗日数が長くなると、ムレ苗が出やすくなるので、タチガレエースM液剤 500～1000 倍液を箱当たり 500ml 灌注するなどにより予防しましょう。

なお、タチガレエースM液剤は、苗立枯病 (フザリウム菌、ピシウム菌) にも効果があります。

(6) 苗が軟弱徒長 (苗丈 23cm 以上) し、移植作業に支障を来す場合、以下に注意して剪葉を行い、苗の老化を防ぎましょう。

① カット部分は、(徒長苗の場合第 2 葉、健苗の場合第 3 葉) 葉身の半分を残し、剪定用はさみ等でカットします (苗丈 15cm 程度とする)。

② いもち病が発生しやすくなるので、防除指針に従い薬剤散布を行いましょう。

※ 苗が多少伸びても、移植作業に支障を来さず、がっちりした苗質であれば剪葉は行わない

